

2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

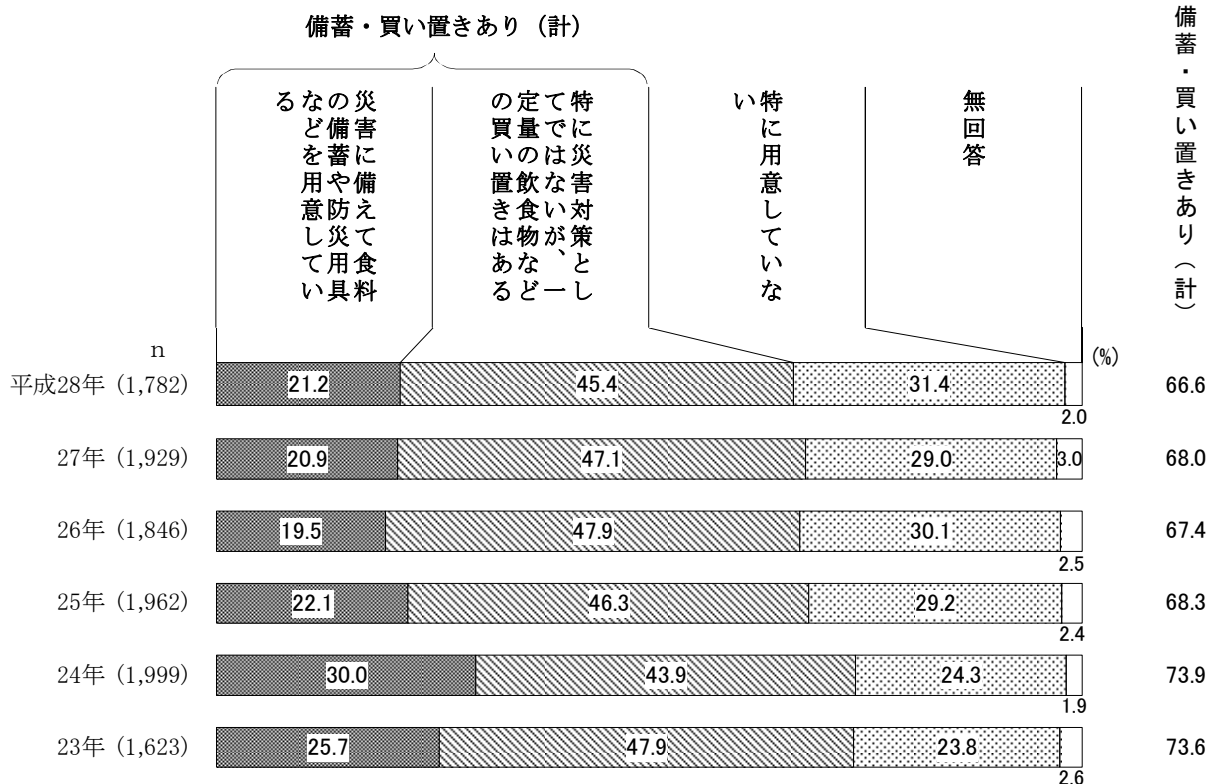
2. 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 用意していない方が3割を超える

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が21.2%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が45.4%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は66.6%となっている。一方、「特に用意していない」は31.4%となっている。

経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の20.9%から、今回21.2%と微増している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は、前回47.1%から今回45.4%へと微減している。

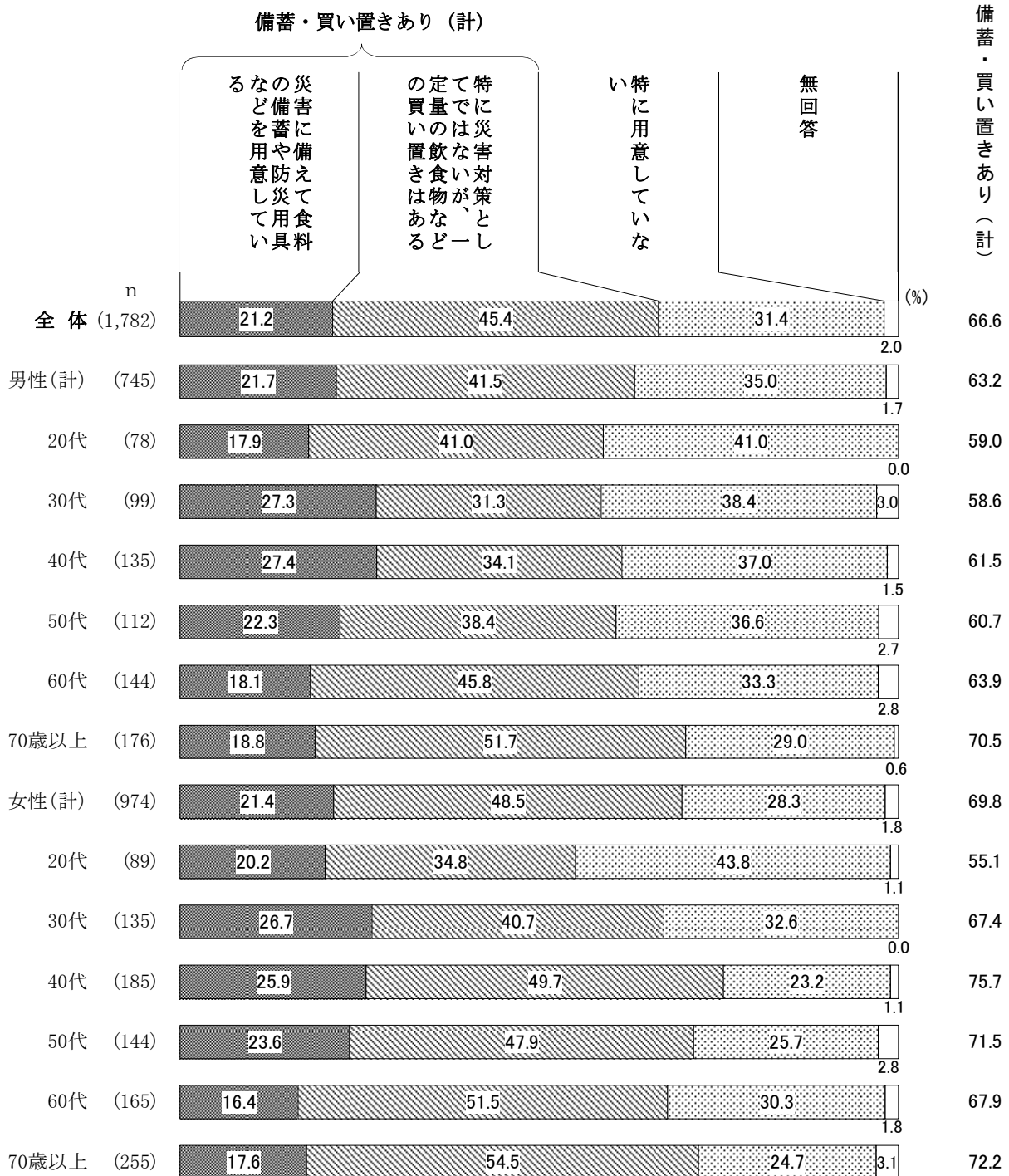
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別で見ると、女性では【備蓄・買い置きあり】が69.8%と、男性（63.2%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では、20代、30代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が6割を超えている。

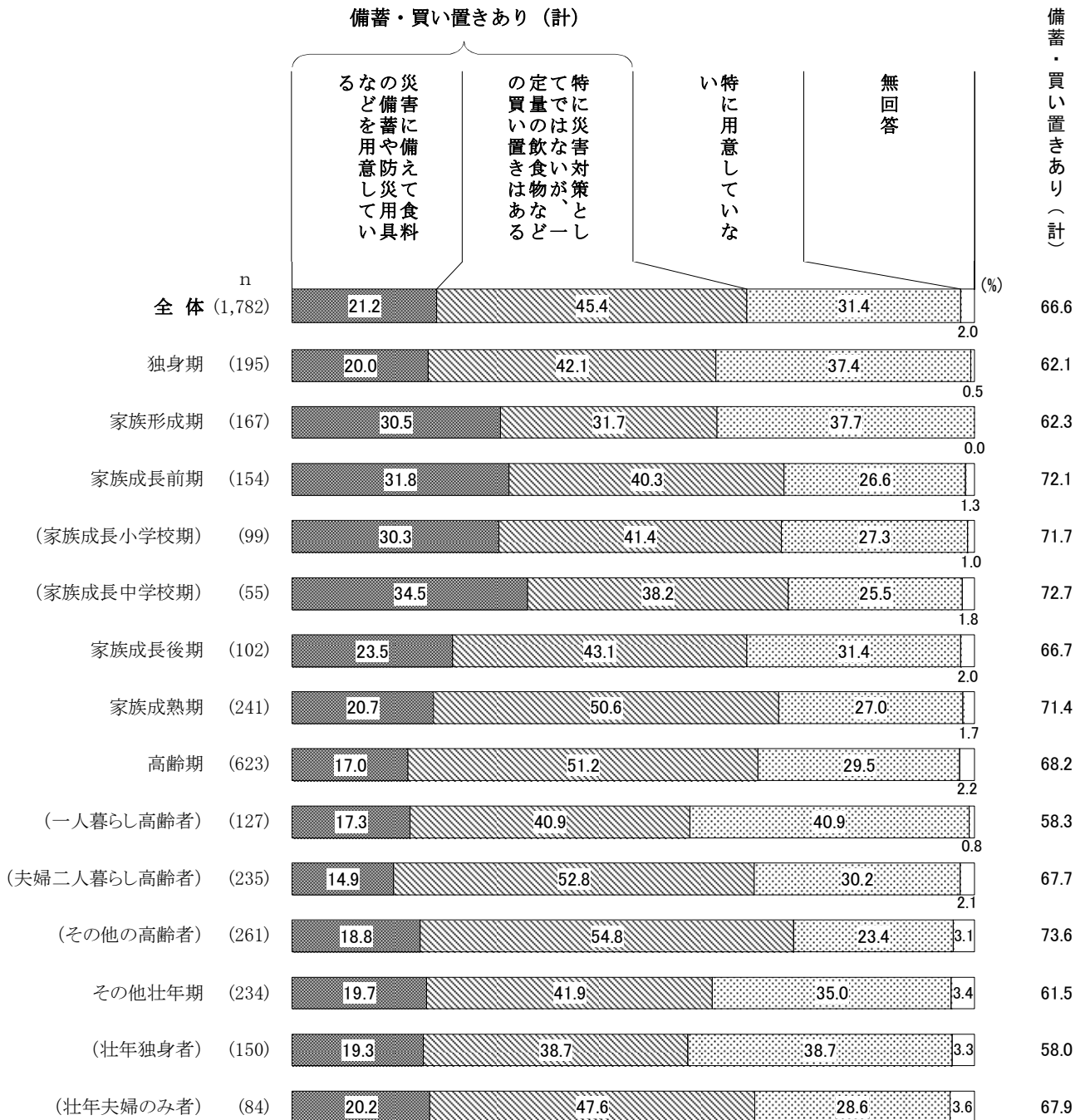
女性では、20代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が6割を超えている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別で見ると、家族成長前期、家族成熟期で【備蓄・買い置きあり】は、それぞれ72.1%、71.4%と高くなっている。

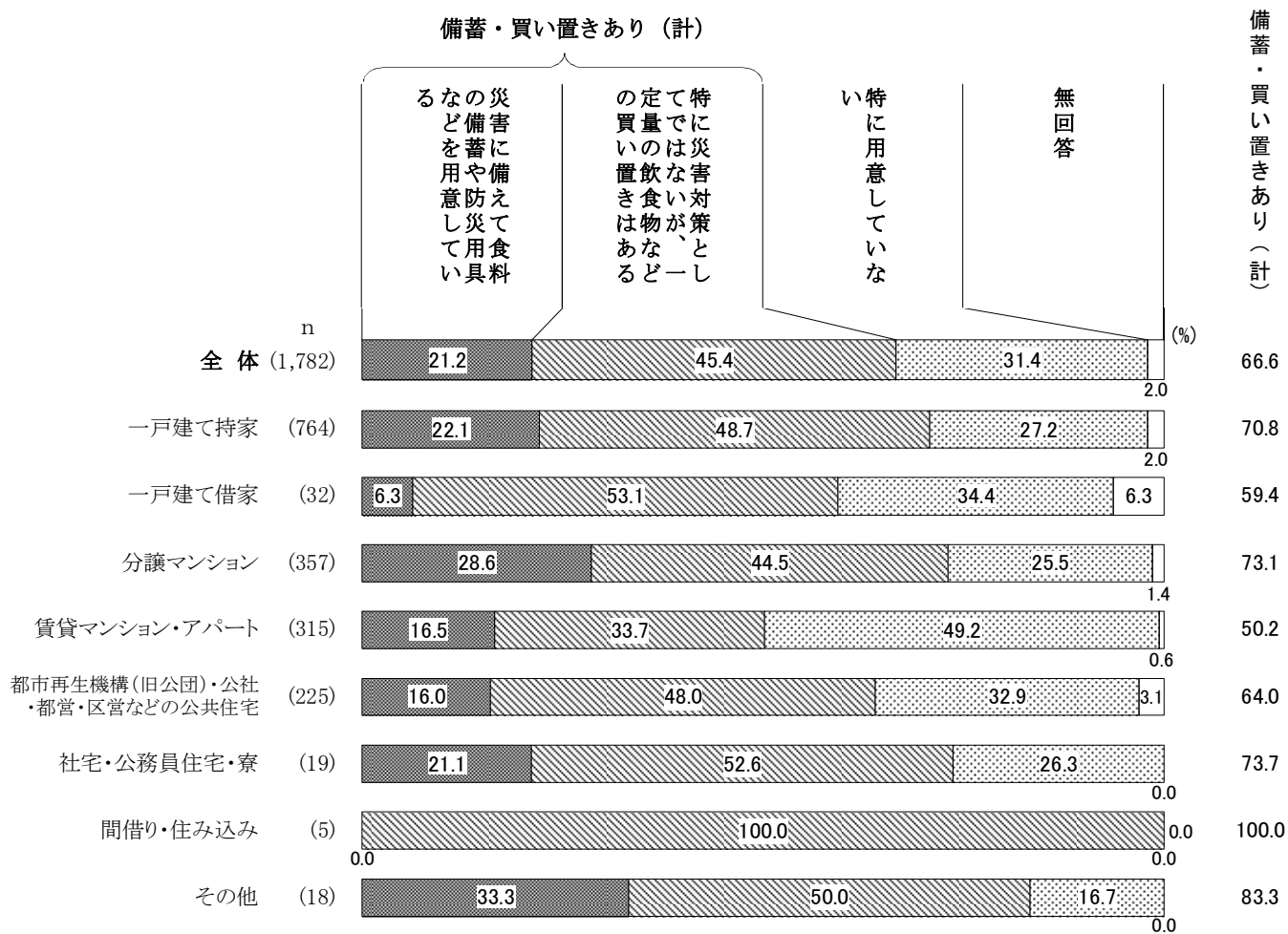
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮では、【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ70.8%、73.1%、73.7%と高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ59.4%、50.2%と、他の住居形態に比べて低くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 「水」「食料」は9割前後、「あかり」が約8割

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(○はあてはまるものすべて)

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

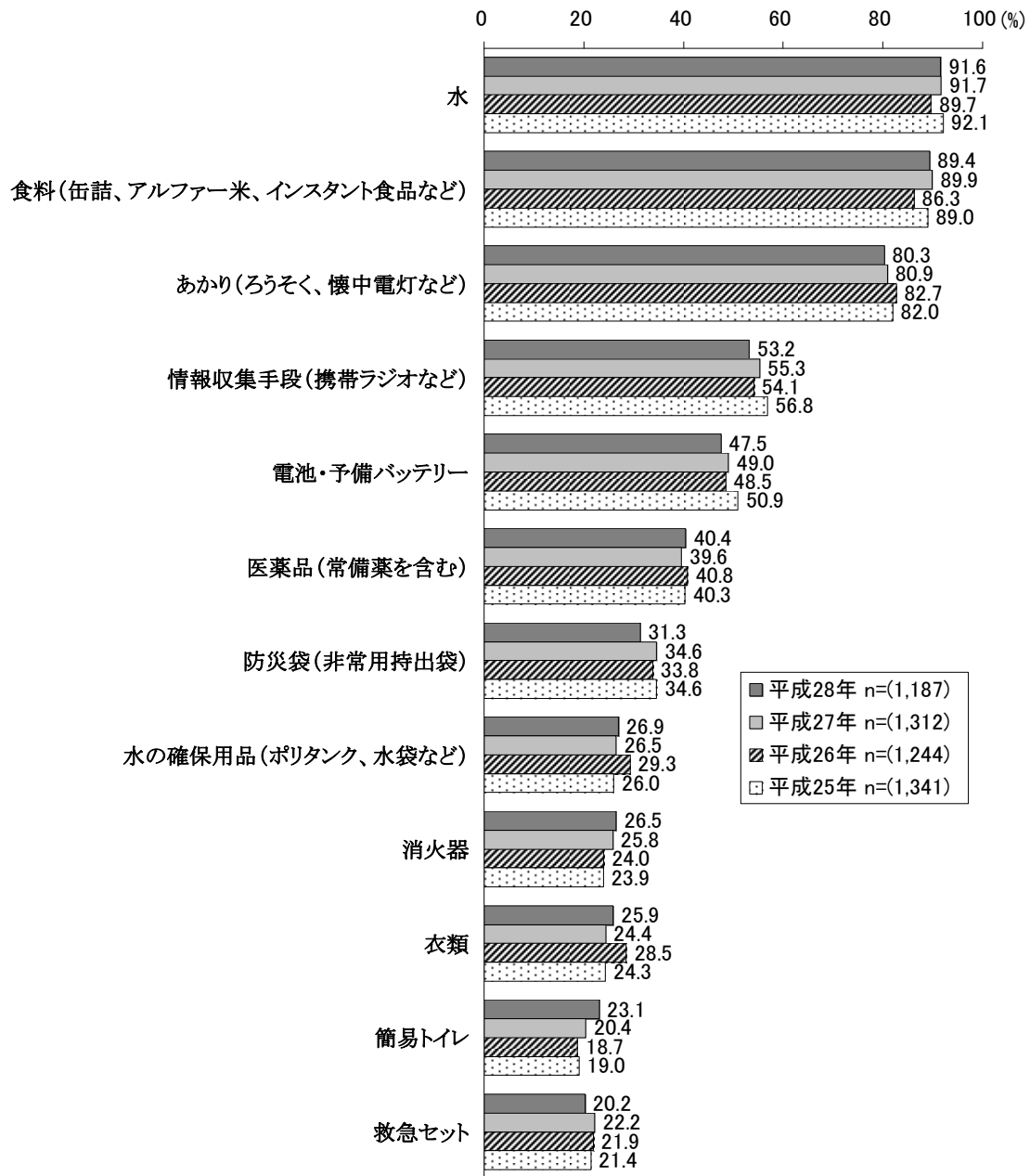
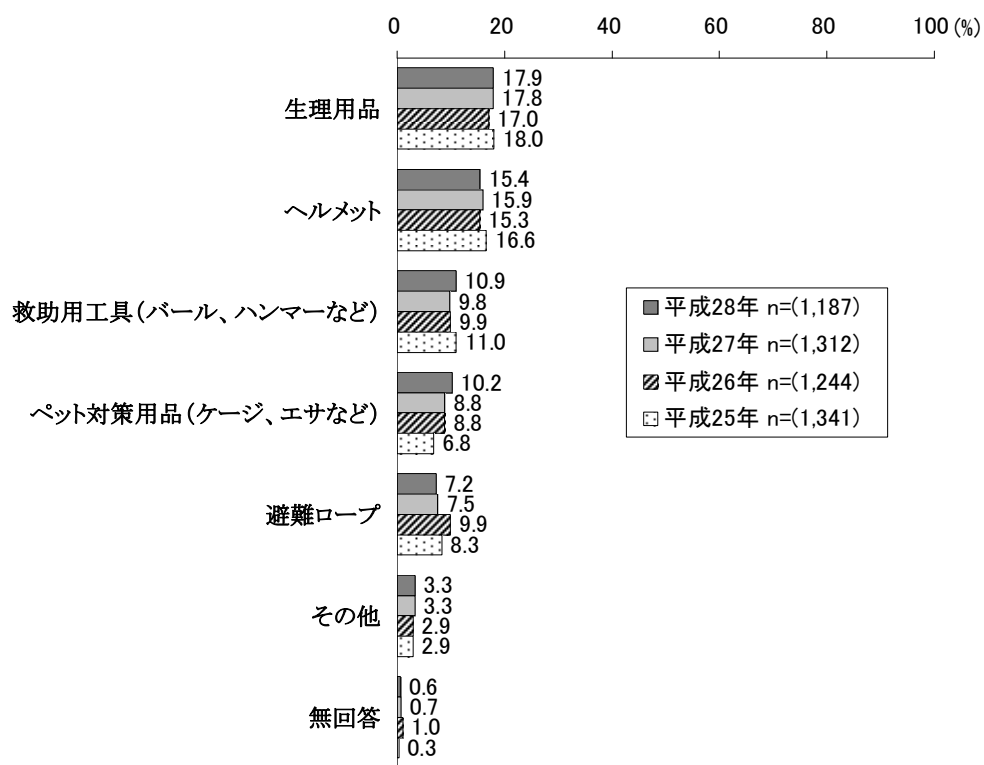


図 2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



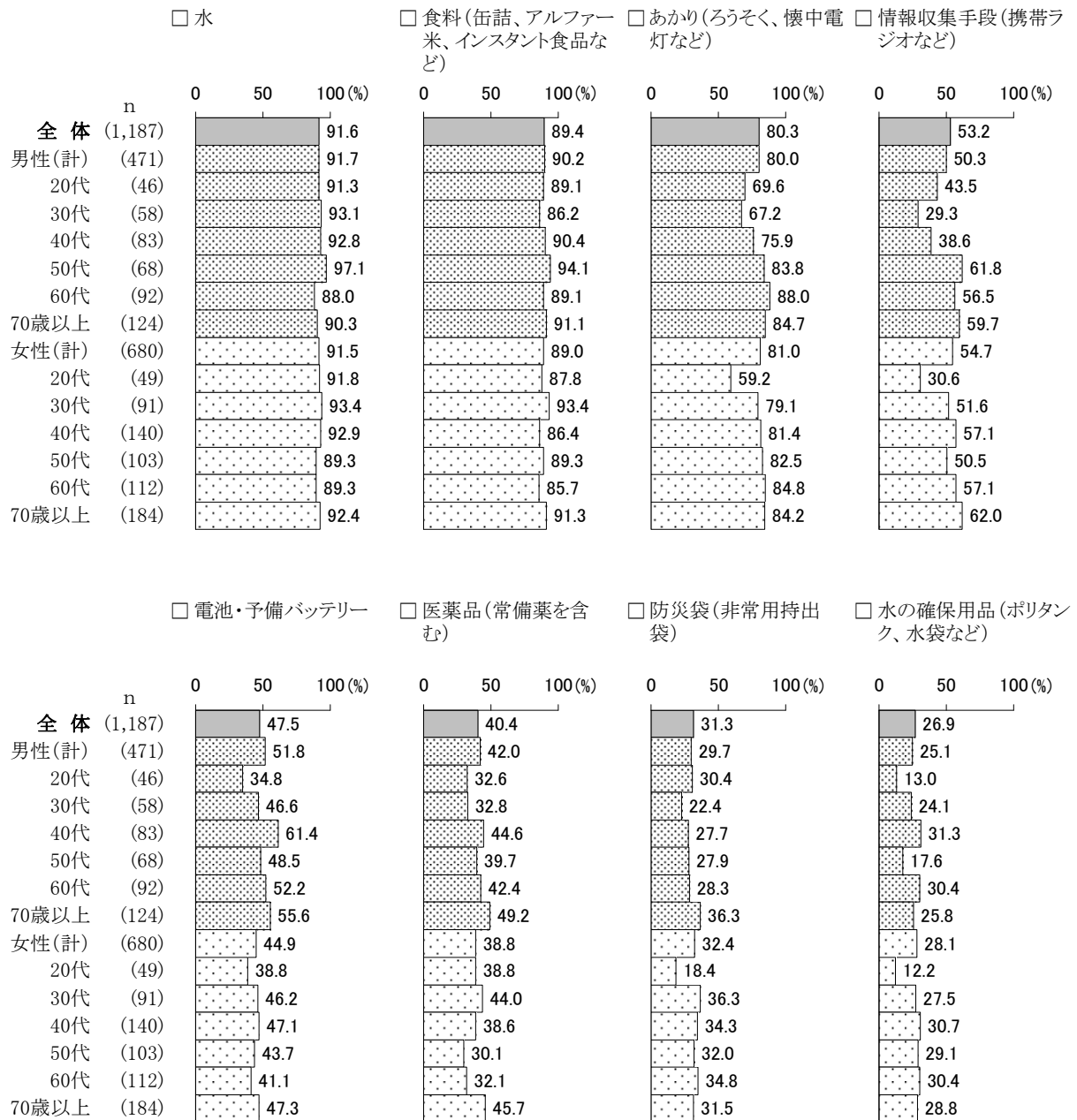
【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が91.6%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」(89.4%)、「あかり（そうそく、懐中電灯など）」(80.3%)の順となっている。

経年でみると、上位3位の順位や数値に大きな変化はみられない。

性別でみると、上位3位について、男女差はみられない。

性・年代別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」については、男女とも各年代にわたって高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」については、50代から70歳以上までの男性、30代から70歳以上の女性で、いずれも5割を超えている。

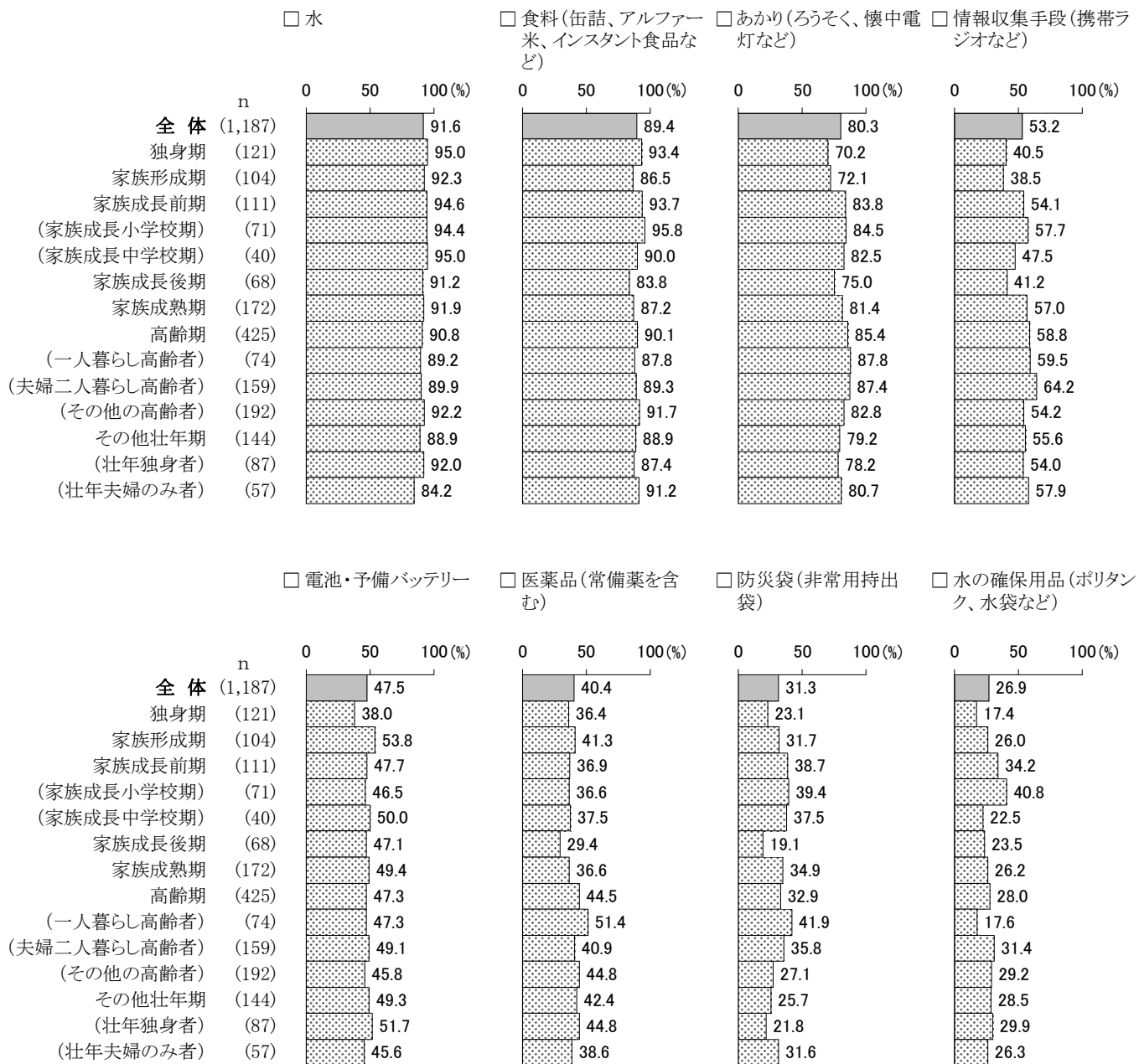
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

ライフステージ別で見ると、「水」と「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」は、各ステージを通じて高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」は、家族成長前期、家族成熟期、高齢期、その他壮年期で5割を超えて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

■ 〈水〉〈食料〉とも「1日分以上3日分未満」の備蓄が多く、〈食料〉では5割

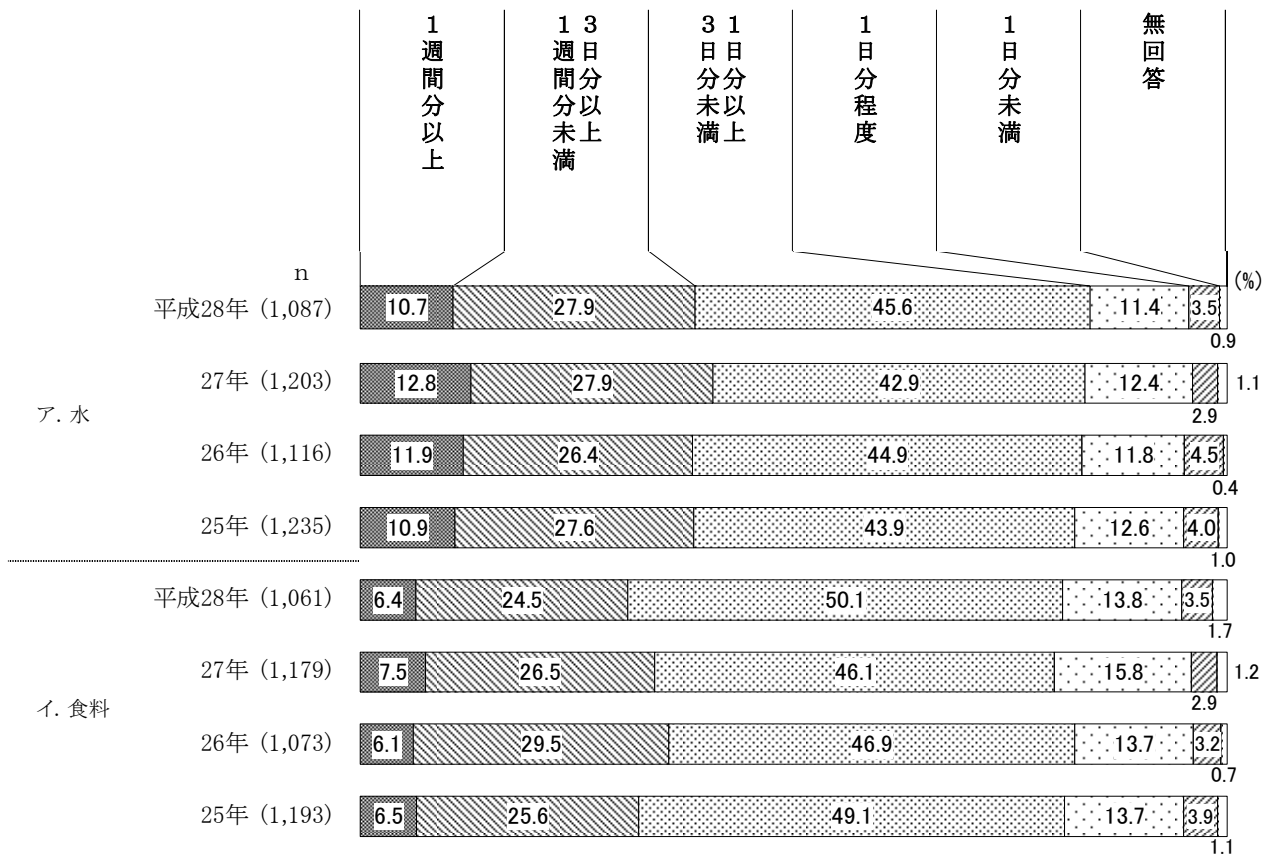
問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較/備蓄量



「水」、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については、「1日分以上3日分未満」が45.6%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（27.9%）となっている。

〈食料〉については、「1日分以上3日分未満」が50.1%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（24.5%）となっている。

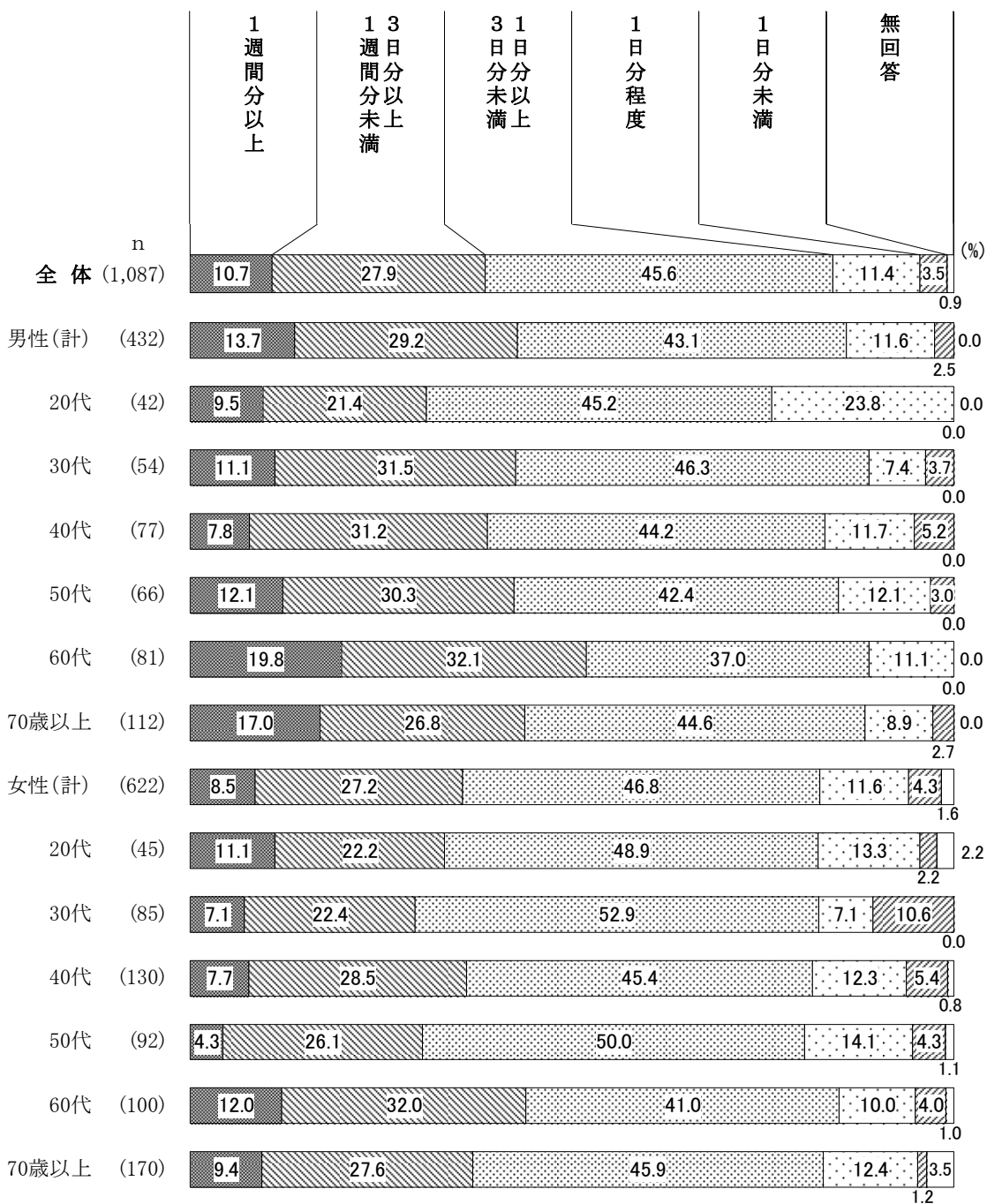
経年でみると、〈食料〉〈水〉とも大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

水の備蓄量を性別で見ると、女性では、「1日分以上3日分未満」が46.8%と、男性（43.1%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男女とも「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

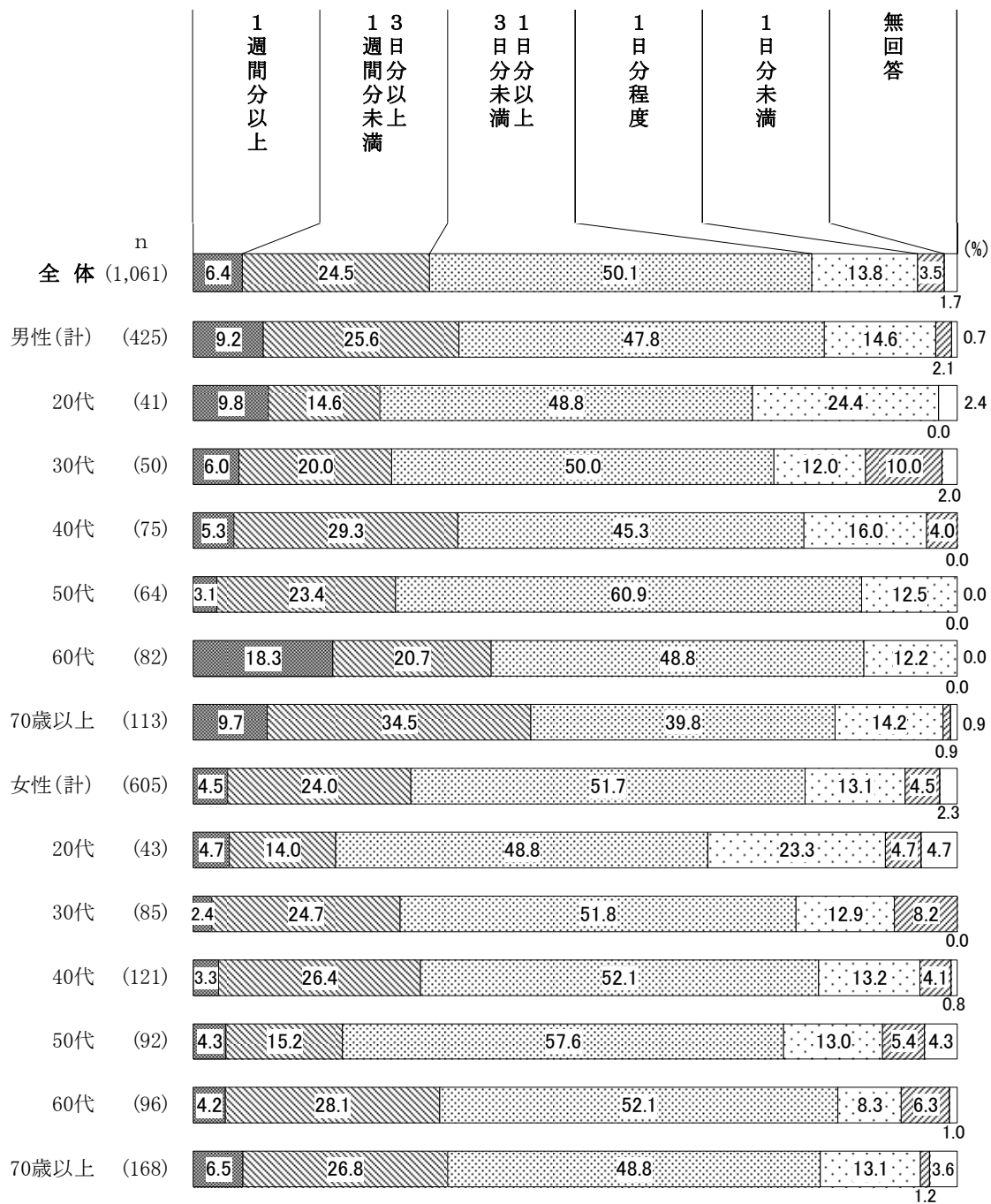
図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



食料の備蓄量を性別で見ると、女性では「1日分以上3日分未満」が51.7%と、男性（47.8%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、男女とも、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

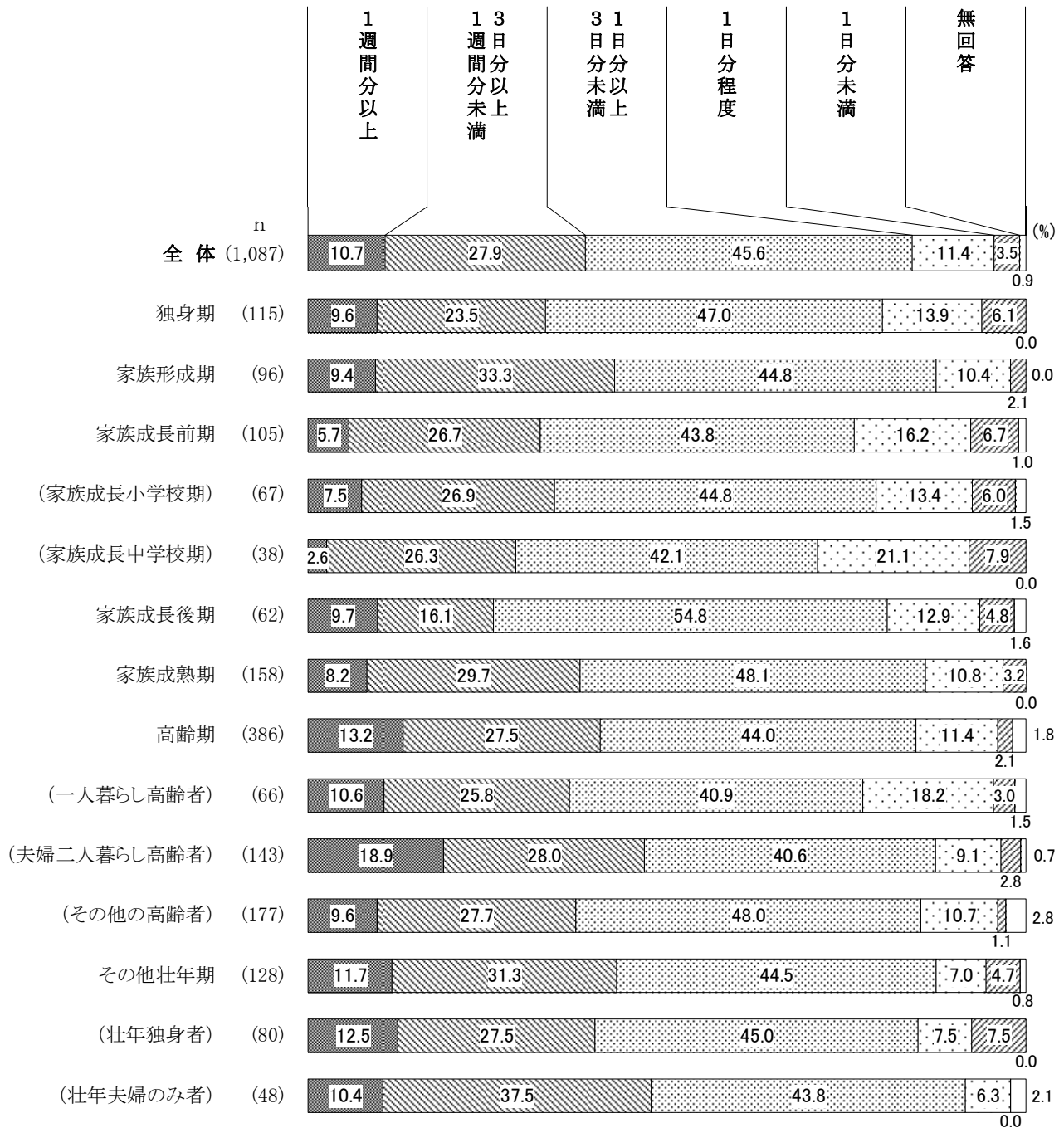
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

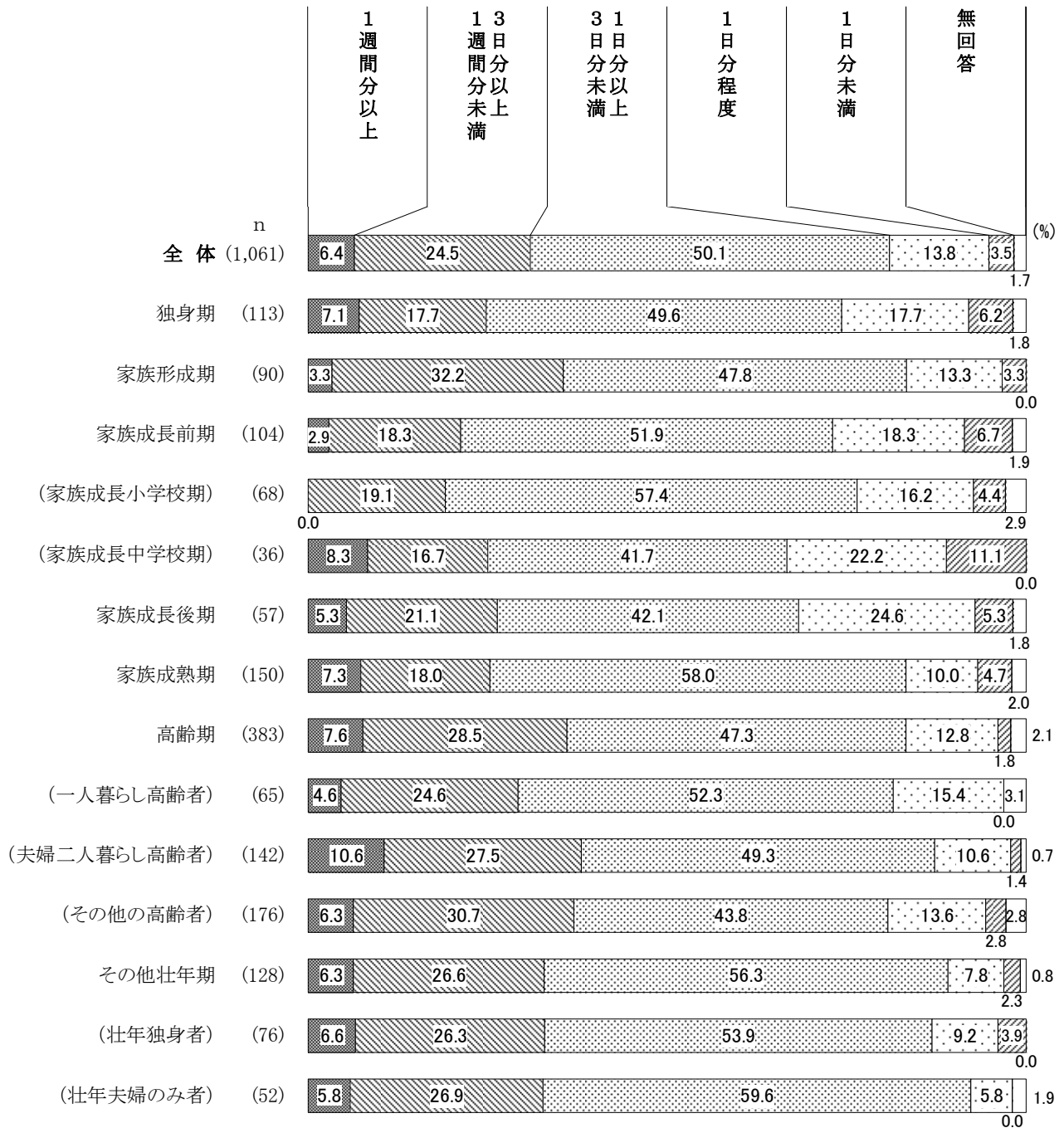
水の備蓄量をライフステージ別で見ると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をみると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



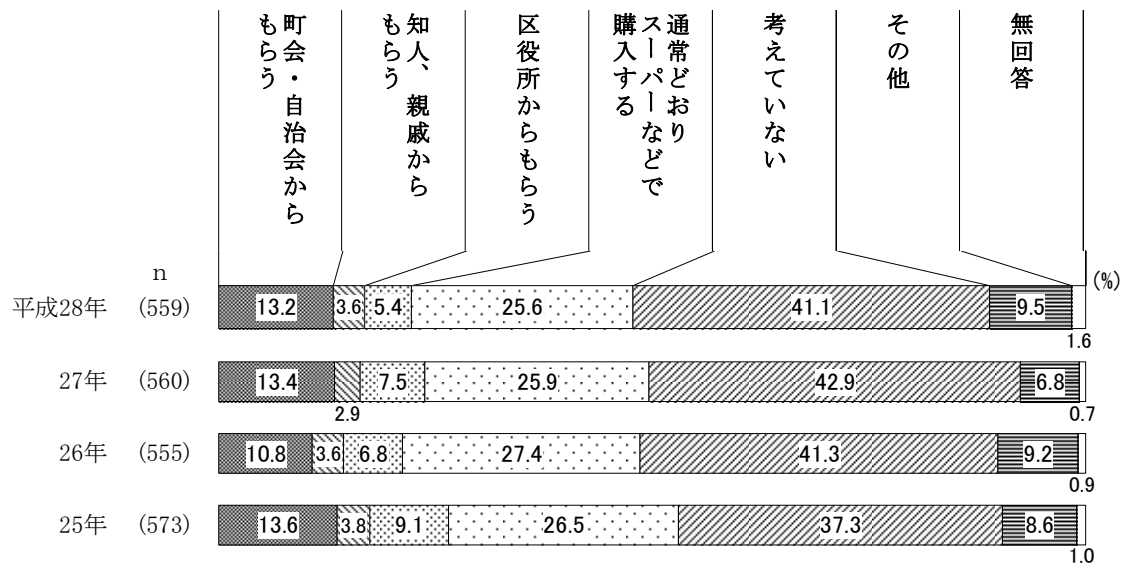
(4) 災害発生時の水や食料の確保

■ 「考えていない」が最も高くなっているも、昨年からは微減

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は1つだけ）。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食糧の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が25.6%で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」(13.2%)となっている。一方、「考えていない」が41.1%を占めている。

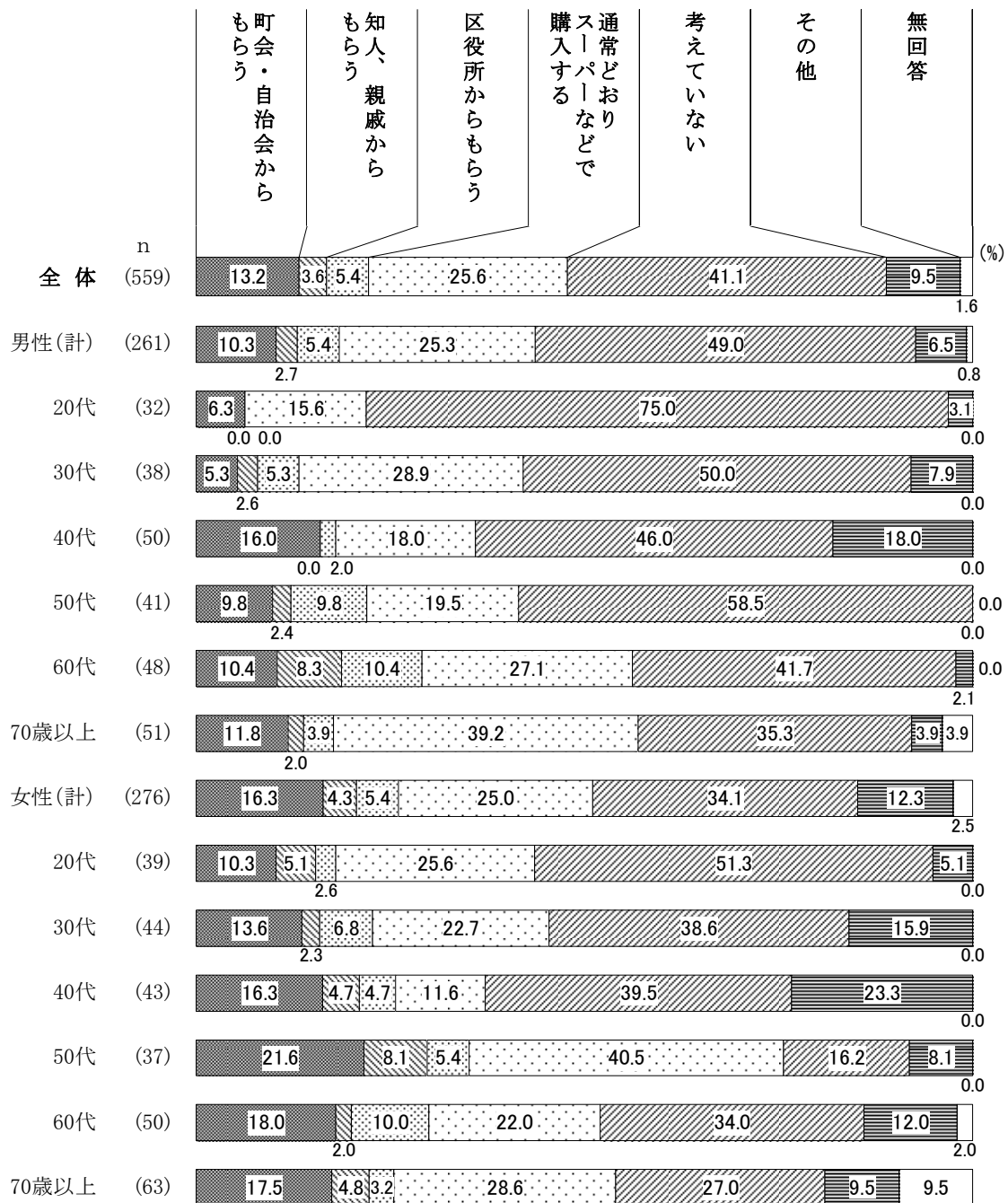
経年でみると、「考えていない」が、平成26年以降横ばい状態にある。

性別で見ると、男性では「考えていない」が49.0%と、女性（34.1%）より高くなっている。

性・年代別で見ると、男性の場合、20代では「考えていない」が75.0%を占めているほか、30代、50代で5割台となっている。また、30代、60代では、「通常どおりスーパーなどで購入する」が、それぞれ28.9%、27.1%と、他の年代より高くなっている。

女性の場合、20代で「考えていない」が51.3%を占めているほか、30代、40代でも4割近くとなっている。また、50代では「通常どおりスーパーなどで購入する」が40.5%と、他の年代より高くなっている。

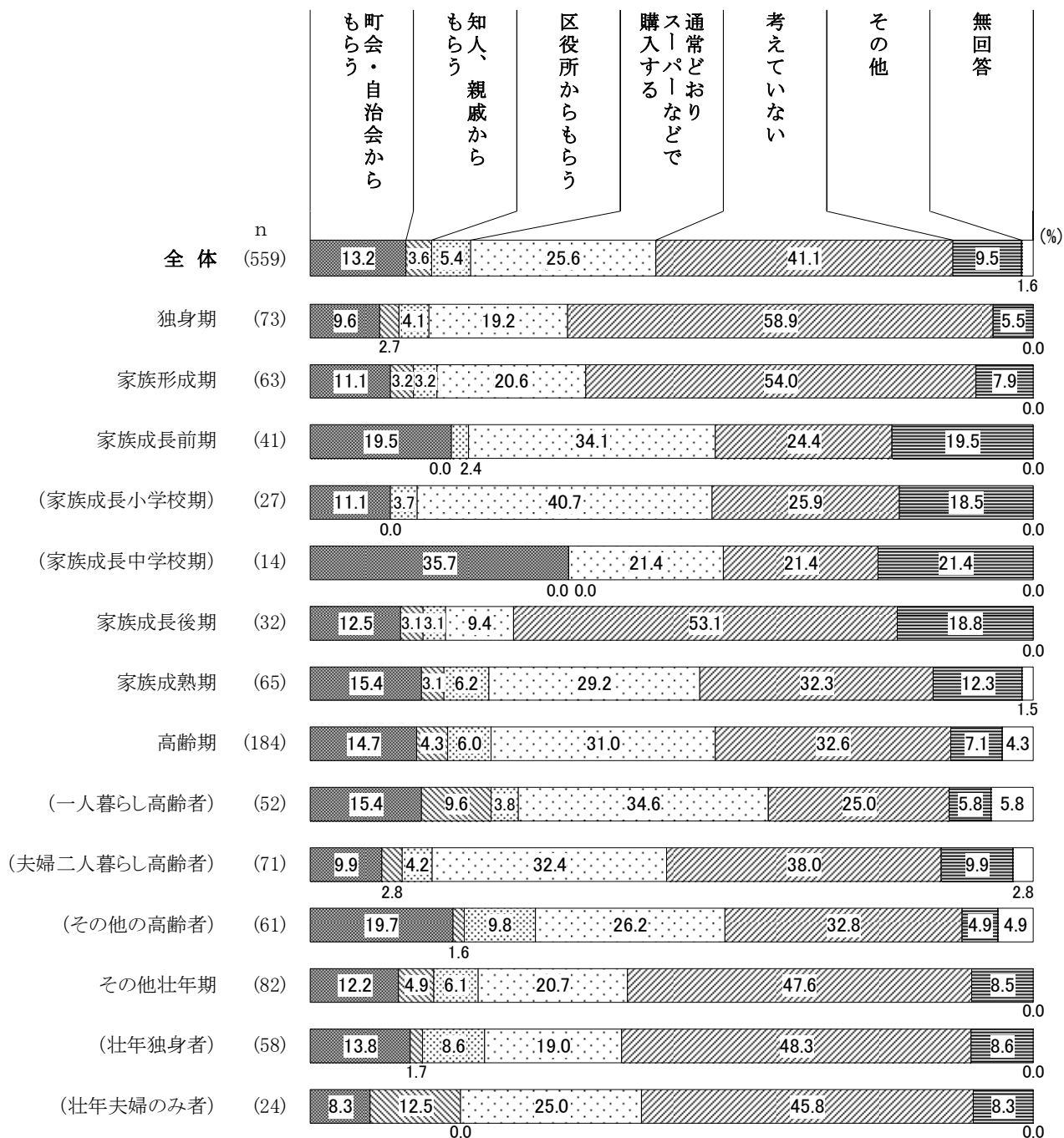
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

ライフステージ別で見ると、独身期、家族形成期、家族成長後期では「考えていない」が、いずれも5割を超えている。また、家族成長前期、高齢期では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割を超えている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



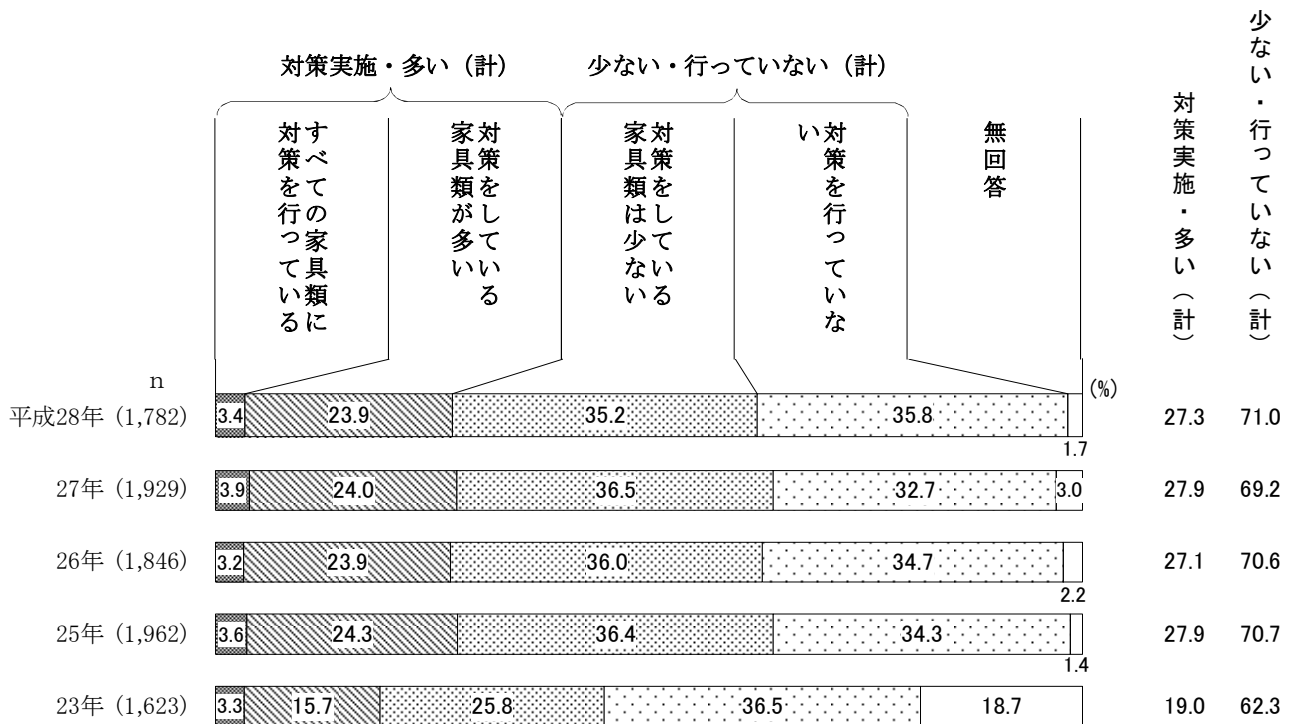
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない方が7割を超える

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較/家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.4%で、これに「対策をしている家具類が多い」の23.9%を合わせた【対策実施・多い】が27.3%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は35.2%、「対策を行っていない」は35.8%となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は、平成25年以降横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】も、平成25年以降ほぼ横ばいとなっている。

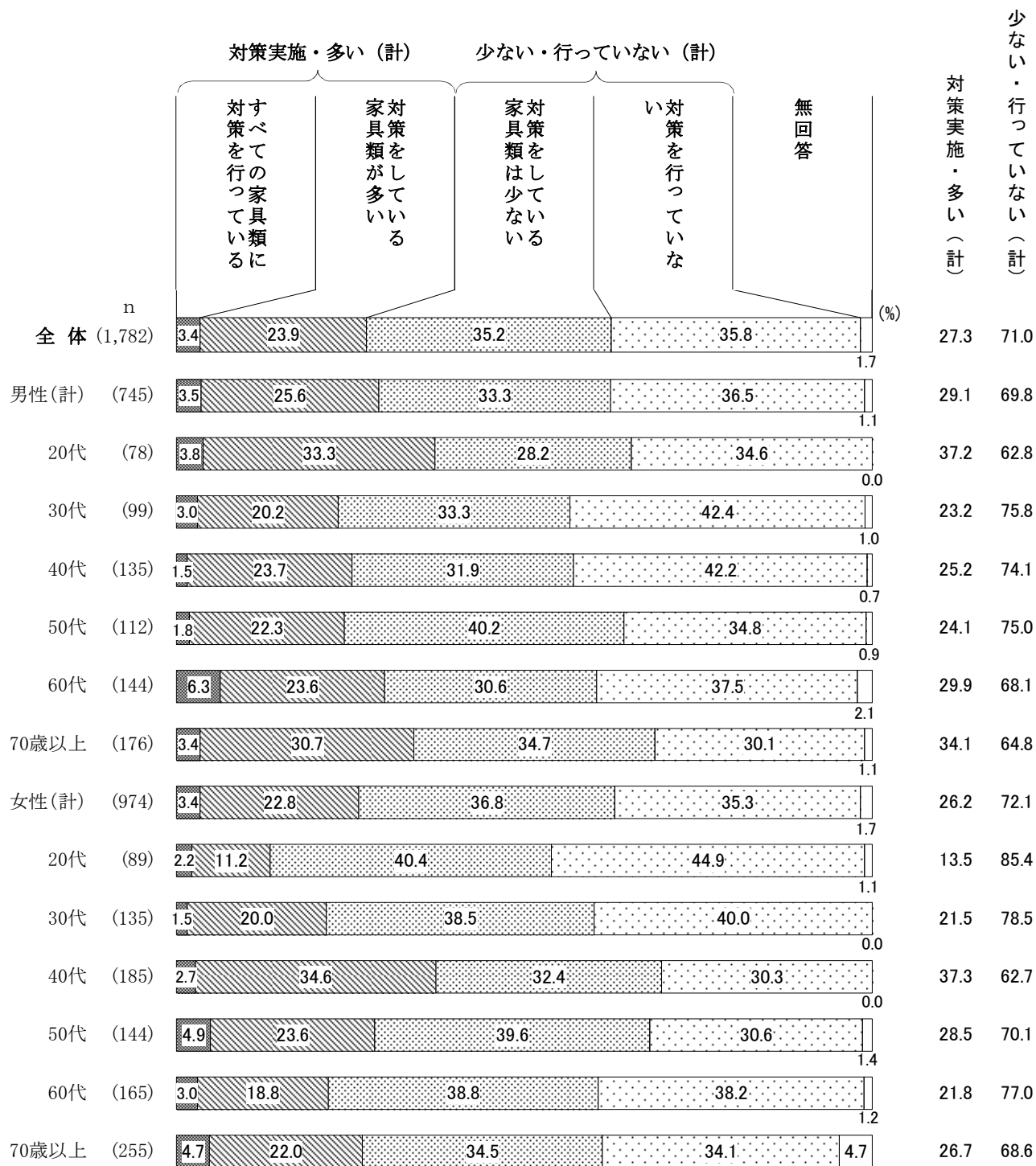
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代、70歳以上で【対策実施・多い】が、それぞれ37.2%、34.1%と、他の年代より高くなっている。

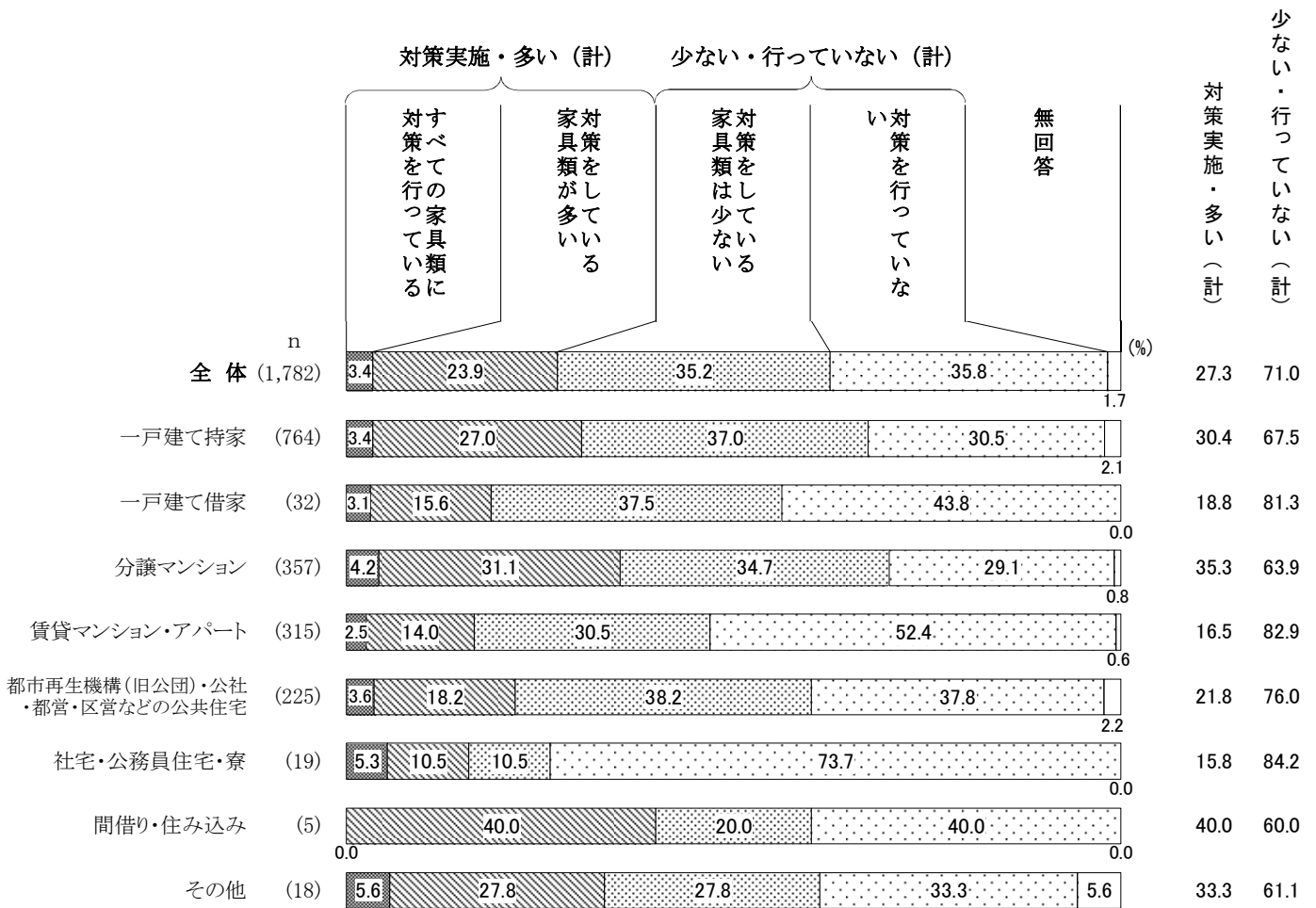
女性では、40代で【対策実施・多い】が37.3%を占めている。

図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



住居形態別でみると、分譲マンションでは【対策実施・多い】が35.3%と高くなっているほか、一戸建て持家でも30.4%を占めている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパート、社宅・公務員住宅・寮では【少ない・行っていない】が8割を超えている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



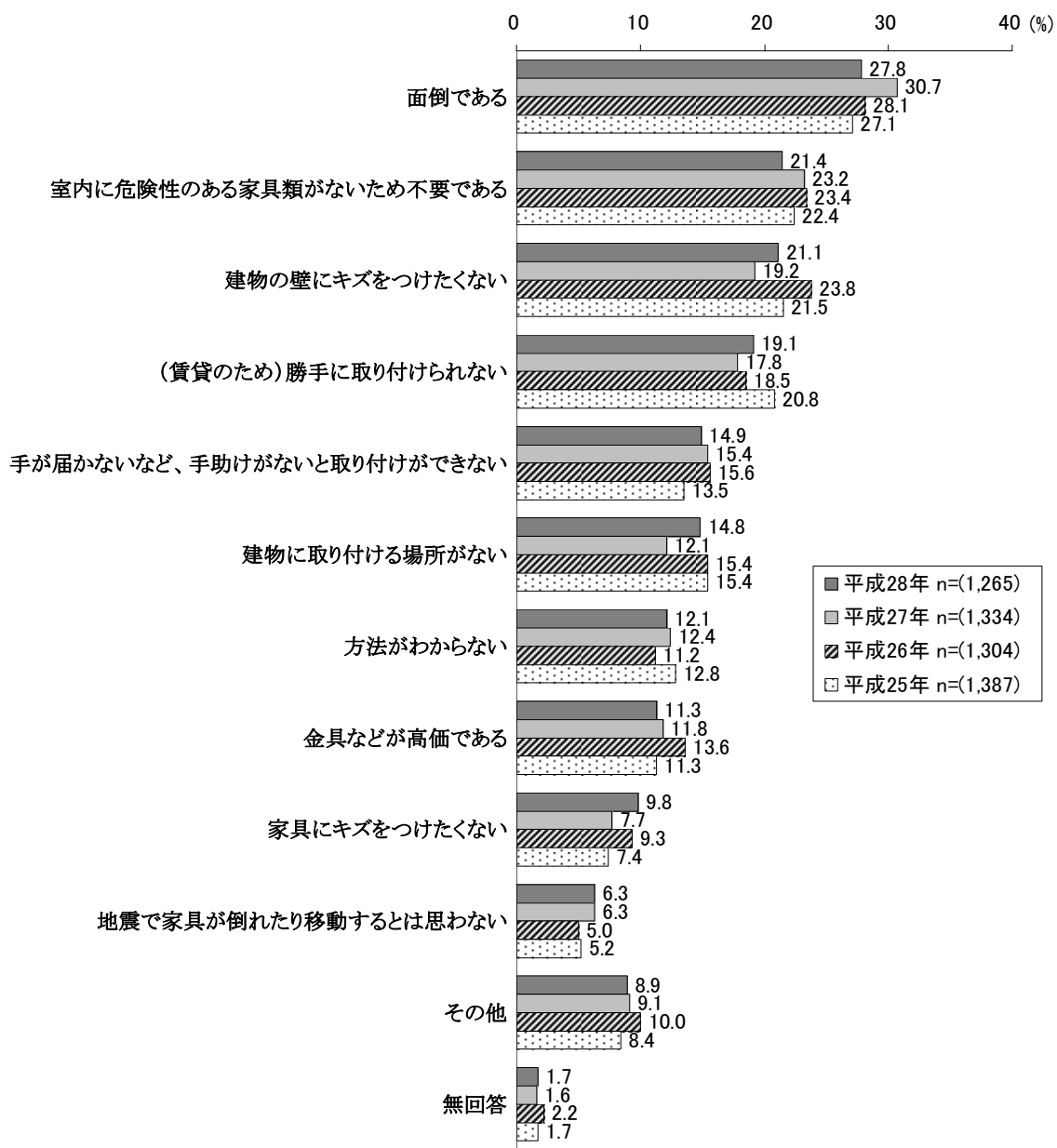
(6) 対策をしていない理由

■ “面倒”が最も高くなっているも、昨年からは微減

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に

問7-1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-6-1 経年比較／対策をしていない理由

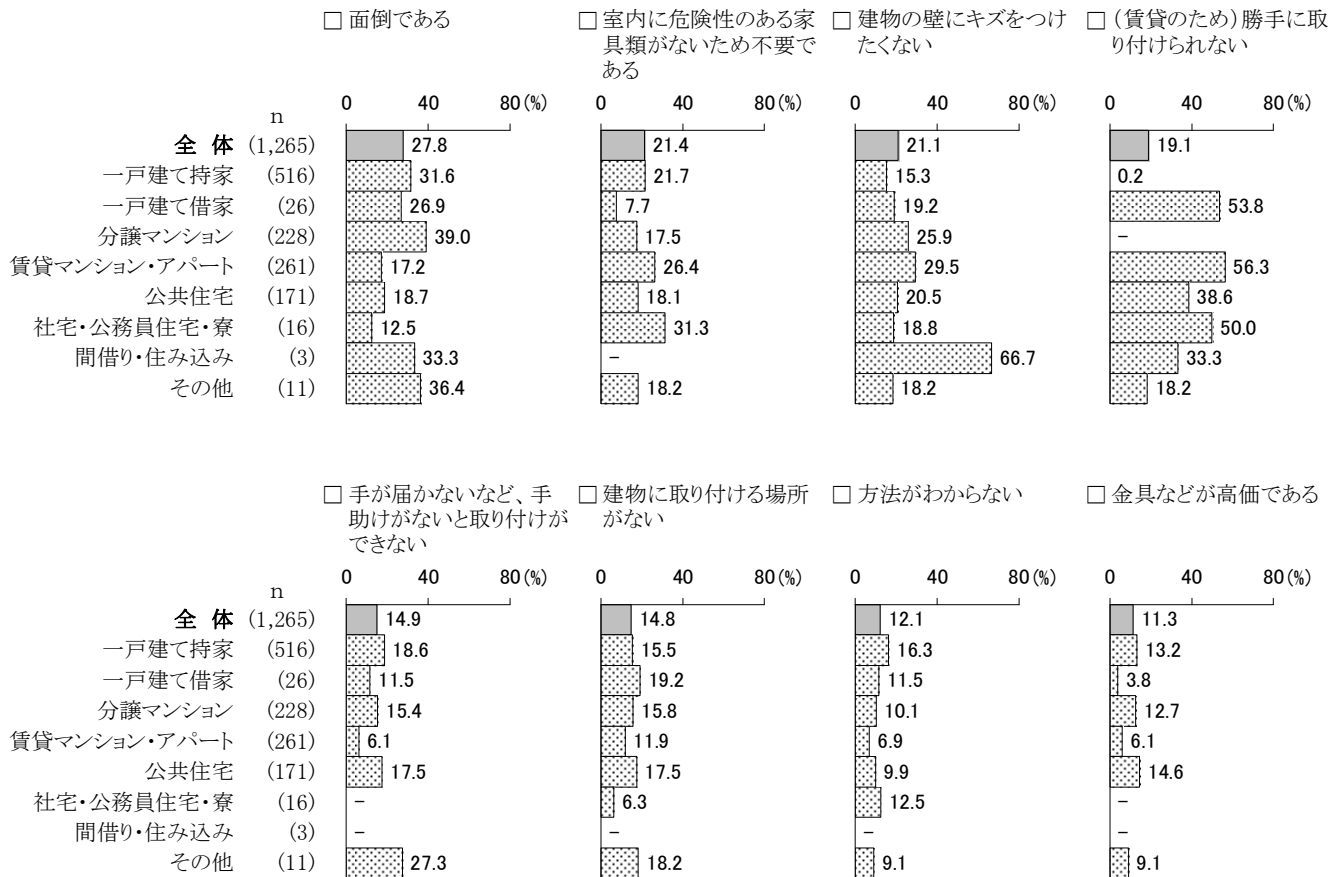


【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が27.8%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類がないため不要である」（21.4%）、「建物の壁にキズをつけたくない」（21.1%）、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（19.1%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変化はみられない。

住居形態別でみると、分譲マンションでは「面倒である」が39.0%を占めているほか、一戸建て持家でも31.6%と、3割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートでは、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が56.3%を占めているほか、一戸建て借家、社宅・公務員住宅・寮でも5割台となっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



(7) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “備蓄の充実” “ライフラインやエネルギーの確保” が5割台で上位

問8 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します

図2-7-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

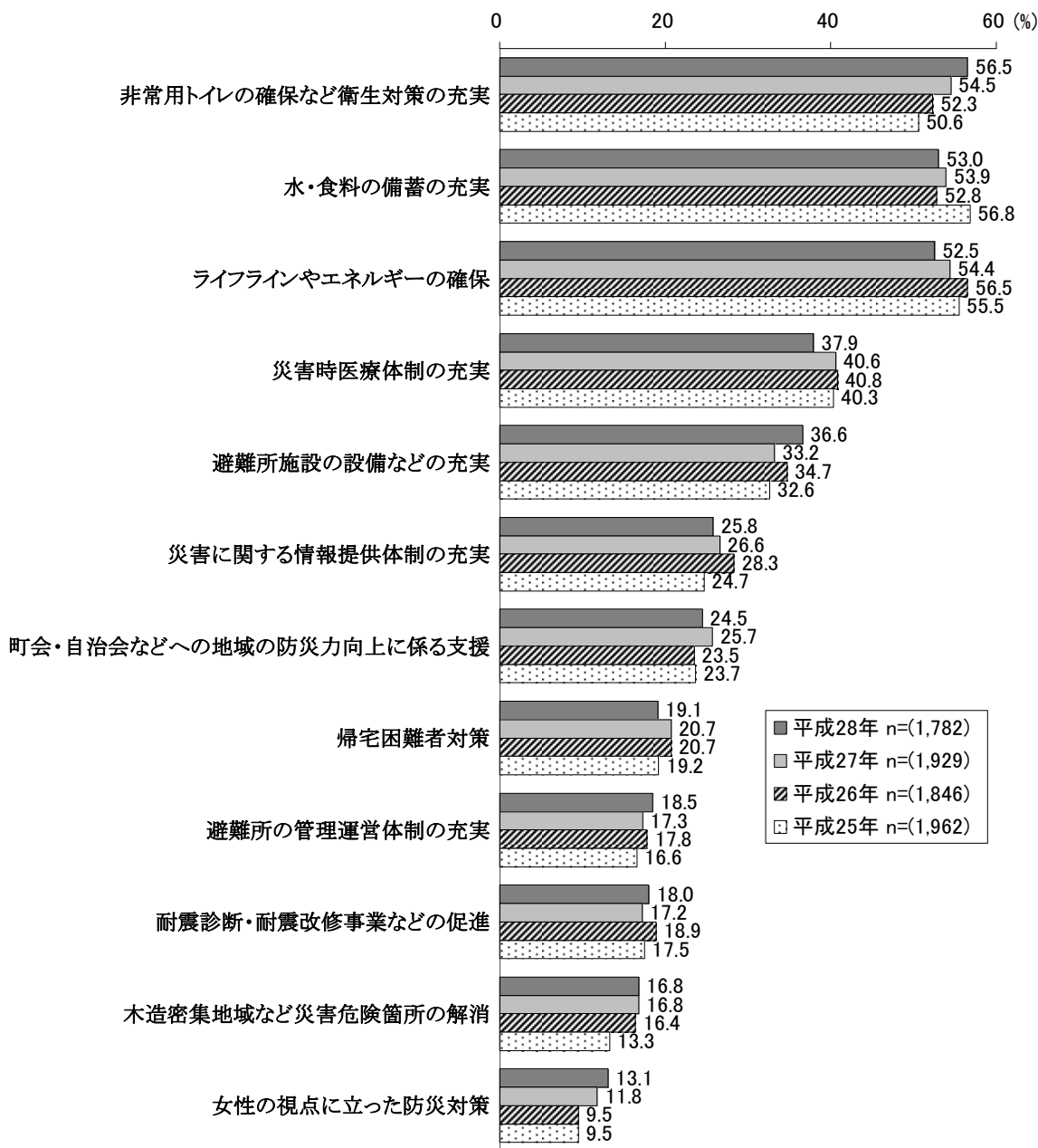
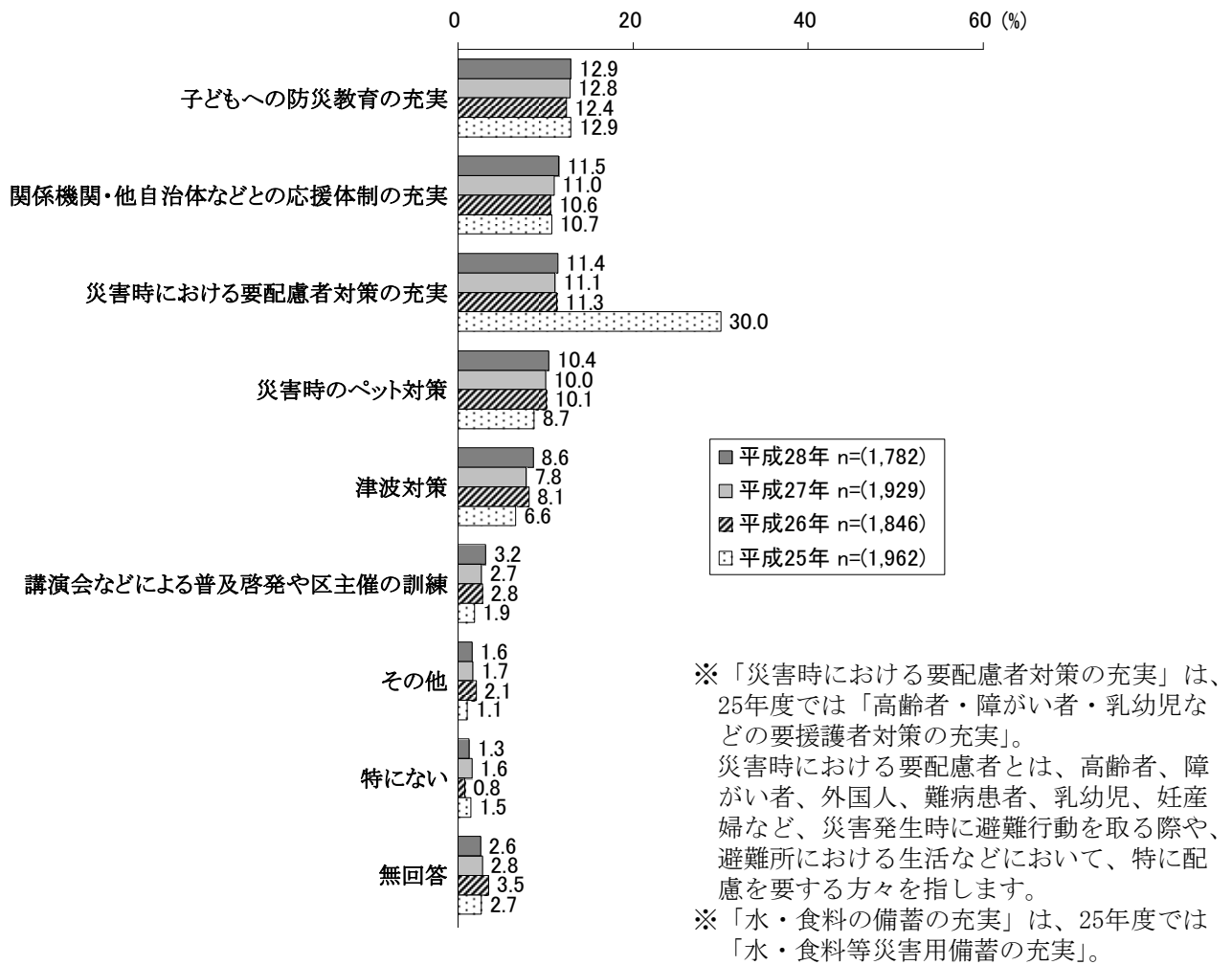


図2-7-1-② 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



大地震の防災対策として力を入れてほしいことは「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(56.5%)、「水・食料の備蓄の充実」(53.0%)、「ライフラインやエネルギーの確保」(52.5%)の3項目が、いずれも5割を超えてとくに高くなっている。

経年でみると、上位3項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

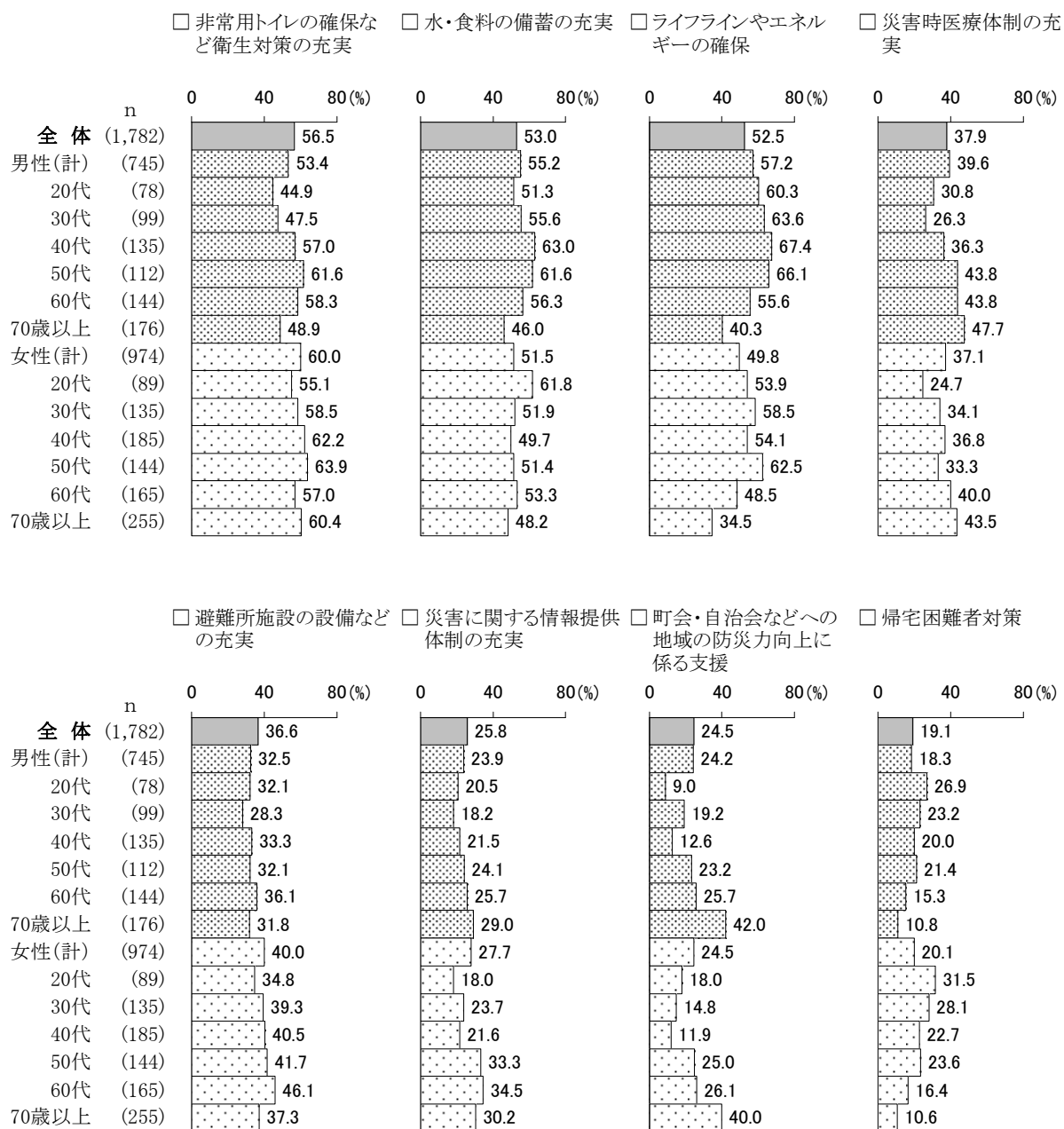
性別で見ると、男性では「ライフラインやエネルギーの確保」が57.2%と、女性（49.8%）より高くなっている。一方、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が60.0%と、男性（53.4%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、40代から60代で、いずれも6割前後を占めている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、20代から50代で6割を超えている。

女性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、40代、50代、70歳以上で、いずれも6割を超え、他の年代より高くなっている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代、50代で6割前後を占めている。

図2-7-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



ライフステージ別で見ると、家族成長後期、その他壮年期では、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が、それぞれ68.6%、62.4%と高くなっている。また、「ライフラインやエネルギーの確保」については、独身期、家族形成期、家族成長後期、家族成熟期、その他壮年期で6割前後を占めている。

図2-7-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

